

—宇宙の意思と調和する心—

人は何のために生きるのか

—大慾清浄—

高野山大学

松長潤慶

稲盛和夫塾長の言葉

誰もが、宇宙のため地球のために必要だから生まれてきた。世のため人のためにあなたの存在が必要だった。従って世のため人のために尽くすのが人生の目的である

「経営とは、人として正しい生き方を貫くことだ」

「集団、それはリーダーの人間性を映す鏡なのです」

盛和塾(企業の隆盛と人徳の和合)の理念

「**心を高め**会社の経営を伸ばして**従業員を**幸せにすることが経営者である」

稲盛哲学の真髄

世のため人のために尽くすために、人間性の向上、つまり心を高め、正しい生き方を目指す(自利)

- ・心を高める⇒自身を含めた人間の本質(心のあり様)を知る
『大毘盧遮那成仏神変加持経』「如実知自心」
- ・正しい生き方⇒自身のなかに本質的、根源的な価値観を形成
「経営」⇒「経(哲学)を営む」「経済」⇒「経(哲学)で済う」

仏教哲学とは「人間の本質を追求」する教え

世のため人のために尽くす人間になる

世のため人のために尽くす人間とは？

盛和塾の理念 「自身の心を高め、従業員を**幸せ**にする人間」

well-being 幸福な状態
健康な状態
本質的な価値に気付いている状態

本質的に価値がある状態を有する周囲に影響をもたらす人間

弘法大師空海のことば

「物の興廃は必ず人に由る、人の昇沈は定んで道に在り」

物事が盛んになるのも廃れるのも、すべて人による。人の向上や墮落は、その人の信ずる道によるのである。

空海が身分や貧富に関係なく誰でもが学べる学校の設立に関する文章『綜芸種智院式并序』にある言葉。

近代の自然と人間の係わり

18世紀半ばから19世紀にかけて欧米を中心に起こった産業革命により、人類は科学技術を急激に向上させ利便性を向上させた

地球という場を改変してまでも人間の生活の豊かさを追求

⇒自然は人間がコントロールするもの **自然vs人間**

資本主義の問題点・・利潤追求がための様々な競争が激化

競争から調和へ

古代ギリシャの宗教を基盤とするキリスト教

神が万物を創造する・・神が人間のために自然を創造した
自然環境は人間が克服すべきもの⇒分離・差別化

分離・差別化により科学技術が発展

ベーダを基盤とするインド思想

宇宙原理が我々の中にある(梵我一如)⇒人間と自然は同質

梵(brahman) 宇宙の最高原理

我(ātman) 個人の本質

関係性による調和

競争から調和へ

古代ギリシャの宗教を基盤とするキリスト教

神が万物を創造する・・神が人間のために自然を創造した
自然環境は人間が克服すべきもの⇒分離・差別化

分離・差別化により科学技術が発展

ベーダを基盤とするインド思想

宇宙原理が我々の中にある(梵我一如)⇒人間と自然は同質

梵(brahman) 宇宙の最高原理

我(ātman) 個人の本質

関係性による調和

人として変わらないもの

今から2500年前に活躍した**釈迦の悟りとは??**

生・老・病・死（四苦） duḥkha ⇒ 思い通りにならない

人間は何のために生まれ、何のために生きているのか??

人生の真実（生きる意味）を追求

人はみんな「**幸せ**」を求めている⇒何が邪魔をしているのか

根本的な煩惱（とらわれ）

rāga ラーガ 貪（とん）

貪欲（とんよく）心地よいことを必要以上に求める心
一般的な用語では「欲」・「むさぼり」

dveṣa ドヴェーシャ 瞋（しん）

瞋恚（しんに）思い通りにならないことに対する憎悪の心

moha モーハ 痴（ち）

愚癡（ぐち）自我がないという真理に対する無知の心

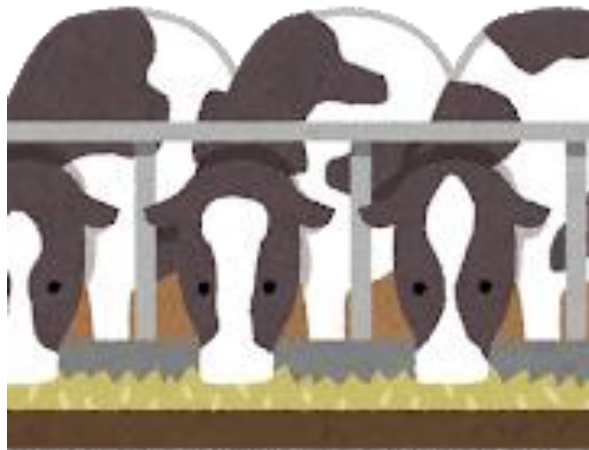
瞑想 yoga ヨーガ

ヨーガとは

日々の感情をコントロールする習慣

「聖と俗の一体化」を指す 梵我一如の実践

「ヨーガ」「ユジュ」 = 「結合する」「家畜を繋ぐ」の意味



即身成仏

瑜伽の観法により宇宙そのもの、大自然と一体化した境地

人間は自然界の中で「生かされている」180万種の生物の一種であり、あらゆる生物は自然界に順応しながら次世代に繋いでいる

自身の存在に関係性を有する自然界のすべての存在に感謝

周囲との関係性を体感するのが「瑜伽」（ヨーガ）

弘法大師空海の入定

虚空尽き、衆生尽き、涅槃尽きなば、我が願も尽きなん

天長9（832）年8月22日に高野山で行われた萬燈萬華会の願文

835（承和2）年3月21日 空海入定

空海は瑜伽行によりその**祈り**と共に**身も心も**自然界に溶け込み
自然の一部となり

未来永劫にわたりすべての存在の幸せを祈っている

自然（宇宙）そのもの⇒マンダラ世界 お遍路⇒同行二人

密教のマンダラ

胎蔵曼荼羅



金剛界曼荼羅



価値の多様性

diversity 相違点、多様性

あらゆる存在の価値を認める

価値を図る「ものさし」は1本ではない

「価値観の多様性」が**21世紀**のキーワード





「重重帝網なるを即身と名づく」

帝網⇒帝釈天の宮殿に張り巡らされた網

網の繋ぎ目にある宝珠は、360度に存在するすべてを映し出す。

このすべてを映し出す宝珠は一つの宝珠として存在するが、周囲のあらゆる存在を映しこむという関係性の上に成り立っている存在

我々もまたすべてを映し出す宝珠のように周囲のあらゆるものとの関係性を持つことにより生かされている存在

そのことに気づき、日々周囲の存在によって生かされていることに感謝し、自身の周囲のあらゆる存在のお役に立つ行動をとる

「即身成仏」⇒関係性のあるすべての存在の価値を認め利他の実践

密教の秘密

密教は七世紀頃にインドで成立した教え。紀元前五世紀に成立した仏教の発展形態の教えで、その名の通り秘密の教え。

秘密・・凡夫の理解できない方法で「聖なる世界」を示す。

2つの秘密⇒1)衆生の秘密 2)如来の秘密

1)衆生の秘密⇒真理は皆に平等に示されているが我々が気づかない。

2)如来の秘密⇒仏が我々の宗教的能力を見極めて教えを説く。

『般若心経秘鍵』

「医王の目には途に触れて皆薬なり。解宝の人は鉱石を宝と見る。」

自利利他

大乘仏教では、すべての人々を救うことを目的とする

利・・利益・有利などの意味ではない

【利する】は【役に立つ】⇒【高まる・高める】の意味

自利⇒自らの生まれ持った能力を努力することにより高める

利他⇒自ら習得した能力を周りの人たちのお役にたてる

自利利他⇒人間が生きるうえでの**根源的な知恵**であり

その心の有り様が**本質的に価値がある状態**

= 「Well-being」

密教の悟り

理趣経

『大楽金剛不空真実三昧耶経』

楽 **sukha** 微笑「心が平静な悟りの境地」

大 **mahā** 摩訶不思議の摩訶に当たる語

「小」に対する相対的な「大」ではなく、絶対的な「大」

⇒二項対立を離れた境地

「かけがえのない、他と比べるものがない」の意味

相対的なものの見方(価値判断)ではなく、一つ一つの存在が本質的に持ち合わせている**かけがえのない価値**を見出す概念

大慾清浄

すべての存在はお互いに**関係性**を有する中で現存しており

「そのものにしかない価値」がある

それぞれの価値を正しく見極め、それぞれの可能性を

最大限に生かす

利他⇒相手の成長に結びつくよう人々のお役に立つ

大慾⇒自身のエネルギーを100%利他に注ぎ込む

お互いに成長できる関係性を目指すことが**大慾清浄**であり、

その関係性の実践こそが**即身成仏**